

# 学校評価総括表

## 令和4年度重点目標

- 1 一人ひとりを大切にする学級・学部・寄宿舍・学校運営
- 2 児童生徒の可能性を引き出す授業・教育活動
- 3 自立と社会参加につながるキャリア教育
- 4 健康・安心・安全な学校づくり
- 5 家庭・地域・関係諸機関との連携・協働
- 6 組織的な学校運営

# 令和4年度学校評価総括表

## 重点目標 (1) 一人ひとりを大切にする学級・学部・寄宿舎・学校経営

NO. 1

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
ポジティブな行動を増やす支援を学校全体で行うスクールワイドPBSの考え方の浸透  【研究課】	(1) 特別支援学校コンサルテーション事業を活用し、各学部の特定の学年団(チーム)においてポジティブな行動支援の取り組みを実践する。	評価指標	評価指標の達成度	(評定) B  (所見) 各学部担当リーダーが中心となり、準備や当日の運営まで滞りなく行うことができた。 各学部特定の学年団(チーム)においてポジティブな行動支援の取り組みを実践し、専門家から多くの助言を得ることができ、ポジティブな行動支援の考え方が少しずつ浸透してきた。	・ポジティブな行動支援は、児童生徒への関わりの基本となる考え方である。次年度以降も引き続き考え方の浸透を図り、日々の授業や児童生徒との関わりに活かすことができるようにしていく。 ・コンサルテーションの運営は、校内外との連絡調整力、ファシリテーションスキル、応用行動分析の知識等、幅広い力が必要不可欠である。引き続き、コンサルテーションを円滑に運営できる次世代の人材育成に取り組んでいく。
		活動計画	活動計画の実施状況		
		(1)-1 6月に学部ごとにポジティブな行動支援研修会、もしくは要請訪問による研修会を実施する。	(1)-1 小学部は6/8、高等部は6/15に研修会を実施した。中学部は5/2、6/23、10/3に要請訪問を実施した。		
		(1)-2 チームで指導・支援に取り組めるように、各事例のケース会を年間5回以上実施する。	(1)-2 小学部はリーダー、サブ、学級担任の役割を明確にし、ケース会記入シートを考案して実施した。全学部年間5回以上実施できた。		
		(1)-3 各事例について、コンサルテーションを年2回ずつ実施し、専門家から助言を受けられる機会を設定する。	(1)-3 小・高等部は8/1、1/23。中1は7/20、2/2。中3は7/13、10/7に実施し、専門家の助言を受けた。		
		(1)-4 学部会やJoruri掲示板を活用して年間4回以上報告会を実施し、学校や学部で共通理解を行う。	(1)-4 学部会、学年会、Joruri掲示板、全体会への参加など4回以上共通理解を図る場を設定した。3月に校内ポスター発表を予定している。		
		(1)-5 県教委主催の2月の実践報告会(Zoom)において、1つ以上の実践を発表し、全職員が参加する。	(1)-5 2/22の特別支援学校対象実践報告会に、全職員(Zoom)で参加する。小学部教員が代表で事例を発表する。		
		(1)-1 学部長と相談し、実践する学年を決め、研修会を実施する。高等部の研修会は、職員希望研修とし、参加を募る。	(1)-1 小学部中高学年、中学部1・3年、高等部1年が事例担当学年に決定した。6/15に希望研修(Zoom)を実施した。		
		(1)-2 各学部の校内担当リーダーが日程調整を行い、ケース会の計画立案、司会進行、記録などを実施する。	(1)-2 校内担当リーダーが関係者と綿密に連絡調整し、ケース会を企画・運営した。		
		(1)-3 県の担当者と連絡調整し日程を決め、実施計画書を作成する。専門家来校時は、案内係や事例検討会の進行係を行う。	(1)-3 県教委、校内関係者と相談し日程を決定し、実施計画書を作成した。当日は、正副リーダー2名が専門家に同行し、課員で協力し事例検討会を運営した。		
		(1)-4 学部長と相談し、コンサルテーション後の学部会において、実践者から指導の経過を説明する機会を設ける。Joruri掲示板に、実践の経過がわかるPPTをアップする。	(1)-4 小学部、中学部は当日に全職員が検討会に参加した。2月に高等部は学部会で報告予定。Joruri掲示板にPPTを掲載し、他学部の事例についても情報共有した。		
		(1)-5 実践報告会で、どの実践を発表するか県教委と検討する。職員全体研修会に位置付け、校内に周知し全職員で参加する。	(1)-5 小学部AI-PACの1事例を発表することに決定した。実践報告会(2/22)参加を職員会議で周知し、参加予定である。		

<p>自己肯定感や自尊感情、お互いを思いやる気持ちの育成</p> <p>【人権・生徒指導課】</p>	<p>(1) 中学部・高等部の生徒に対して、お互いを思いやる気持ちを育成するための指導を行う。</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>(1)-1 中学部・高等部の生徒に対して、生徒同士が気持ちよく学校生活が送れるように、学部集会の際に、生徒指導または人権教育に関する講話を年6回以上行う。</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>(1)-1 中学部・高等部に所属している生徒指導担当教員または人権教育担当教員がそれぞれ学部集会の時に、「お互いを思いやる気持ち」に関する内容の講話を年間6回以上行う。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>(1)-1 中学部では、生徒指導主事が毎月学部集会で講話を行った。 高等部では、人権教育主事・生徒指導主事が、長期休業の前後に講話を行った。中・高等部とも年間6回の目標は達成した。</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>(1)-1 中学部では、生徒指導主事が学校生活をお互いが気持ちよく送るために「思いやり」をもつ必要性を、高等部では、生徒指導主事から生徒指導上での人権問題（ネットいじめなど）や中間作りに関する話を、人権教育主事から「いじめ」についての講話を行った。</p>	<p><b>総合評価</b> (評定) B</p> <p>(所見) 中学部では生徒指導主事が集会ごとに講話を行い、高等部では人権教育主事から3回、生徒指導主事から4回、人権に関する講話を行い、目標回数を達成した。しかし、集会で講話をただけでは、「お互いを思いやる気持ち」を育成することは不十分であった。</p>	<p>・次年度の課題等にあるように、日々の授業の中でお互いを思いやる力を育てるといふ、教育の機会があつて培われていくことがある。実際に経験していくことが大切である。</p>	<p>・講話だけでは「お互いを思いやる気持ち」を育成することは不十分だと思われる。日々の授業を通じて、お互いを思いやる気持ちを育てるような教育実践を積み重ねていく必要性を感じる。そのため、教育効果が上がるような授業内容を検討し、各学部の人権教育担当者が中心になって職員研修に取り組んでいく。</p>
<p>いじめ防止基本方針に基づく予防教育の実践と組織的対応</p> <p>【人権・生徒指導課】</p>	<p>(1) いじめ防止基本方針に基づいて、いじめの防止に努める。</p> <p>(2) いじめの早期発見、早期対応につながる取組を推進する。</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>(1)-1 インターネットやSNSなどの使用に関するモラル（プライバシー保護など）教育を年1回以上行う。</p> <p>(1)-2 いじめ防止に関する生徒の自主的な活動の機会を年1回以上設定する。</p> <p>(2)-1 「いじめアンケート」を年2回以上行い、いじめへの早期発見・早期対応を行う。</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>(1)-1 少なくとも年間1回以上、「携帯電話使用教室」（中学部・高等部の生徒対象）を行い、そのときに、インターネットやSNSの使用によって生じるいじめについて言及する。</p> <p>(1)-2 高等部の部活動である「ふれあいボランティア部」の活動として ①「いじめの防止ポスター」の作成・掲示 ②校内の美化活動 ③書き損じハガキや古切手等の回収を実施する。 中学部の「いじめ防止子ども委員会」での活動として ①挨拶運動（年間2回） ②いじめの防止活動（年間2回）を実施する。</p> <p>(2)-1 全校児童生徒を対象に、年間に少なくとも2回「いじめアンケート」を実施し、その結果を受けて担任教員を中心に、各学部の生徒指導担当教員、学部長で対応する。さらに管理職を含め、全学部長、生徒指導主事、人権教育主事等で組織的に対応する。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>(1)-1 インターネットやSNSなどの使用に関するモラル（プライバシー保護など）教育を年4回行った。</p> <p>(1)-2 「ふれあいボランティア部」が、いじめ防止のポスター作成や人権劇を行った。</p> <p>(2)-1 「いじめアンケート」を年2回行い、いじめへの早期発見・早期対応を行った。</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>(1)-1 中高生徒対象の「携帯電話・スマホ安全教室」でSNS使用に関するモラルについての教育をNTT docomoの協力のもと1回実施した。また、中高等部ともに学部集会で、SNSでのトラブルやいじめについて4回講話を行った。</p> <p>(1)-2 高等部の「ふれあいボランティア部」が、書き損じハガキ、古切手の回収やいじめ防止ポスターの作成等の活動を行った。また、中学部の「いじめ防止子ども委員会」では、朝の挨拶運動を年間2回行った。</p> <p>(2)-1 「いじめアンケート」の結果をもとに学部を超えて聴き取りを行い、真相の究明や早期解決に務めた。担任、学年主任、学部長とも連携を図り、組織的に対応することができた。</p>	<p><b>総合評価</b> (評定) A</p> <p>(所見) 外部講師を招いたことで、SNS等についてより専門的な教室を開くことができた。集会においてもSNSのモラルについて取り組むことができた。 また、「ふれあいボランティア部」が、いじめ防止ポスターを作成し校内に掲示したり、いじめ防止の寸劇を行い録画したものを学部集会で視聴したりし、生徒の活動の機会がもてた。 年2回の「いじめアンケート」を行い、いじめの早期発見につながった。</p>	<p>・</p>	<p>・昨年までは休部状態であった「ふれあいボランティア部」が活動を再開して、「いじめ防止ポスター」の作成・掲示など、自主的な活動をすることができた。来年度もこの活動を継続していくと同時に、まだ1年生だけの活動であるので、他学年にも広めたい。</p>

<p>人権意識に基づく児童生徒指導の徹底</p> <p>【寄宿舎】</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣を身につけるため、目標を舎生と一緒に考え、主体的に取り組むことができるように支援する。</p> <p>(2) ポジティブな行動を増やす支援を学び、舎生一人ひとりを尊重する意識を高める。</p>	<p>評価指標</p> <p>(1)-1 アセスメントを基に、グループ担任で話し合い、達成可能な生活目標を検討する。</p> <p>(1)-2 保護者の希望を考慮し、学級担任と連携して、指導・支援を行う。</p> <p>(1)-3 舎生に現在の生活状況を伝え、舎生自らが主体的に意欲を持って取り組めるような目標を立てる。</p> <p>(1)-4 目標の内容、経過及び達成状況を保護者に伝える。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>(1)-1 アセスメントを基に、舎生の実態に合わせた達成可能な生活目標を考えた。</p> <p>(1)-2 保護者の希望を参考にし、学級担任と共通理解を図り、望ましい目標を設定し、指導・支援を行った。</p> <p>(1)-3 舎生に必要な生活目標をわかりやすく伝え、取り組みやすくした。</p> <p>(1)-4 学期ごとに目標の内容、経過及び達成状況を保護者に伝えた。保護者から賞賛されることで舎生の意欲を引き出すことができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>アセスメントの内容を見直したことから、舎生の実態に沿った生活目標を立てることができた。</p> <p>ポジティブな行動支援について指導員間で共通理解を図ることができた。ポジティブな行動を増やす支援を行うことで、生活指導に余裕が生まれ、舎生一人ひとりを尊重する意識が高まった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も改修工事が続くため、環境設備や舎生の健康と安全に配慮していく必要がある。</li> <li>・ハード面での新しい寄宿舎の完成とともにソフト面での寄宿舎運営について検討し、実践していくことが必要である。</li> <li>・今後とも、指導員間での共通理解を図る場や研修する機会を増やし、積極的に活動し、励んでいきたい。</li> </ul>
		<p>活動計画</p> <p>(1)-1 5月中にグループ担任で、舎生一人ひとりの生活目標について話し合う。</p> <p>(1)-2 寄宿舎生連絡会を行い、共通理解を図る。(年間2回予定)</p> <p>(1)-3 グループ担任で話し合った目標の中から、個々に合った目標を、舎生と一緒に決める。</p> <p>(1)-4 寄宿舎連絡帳または口頭で保護者に連絡する。</p> <p>(2)-1 ポジティブな行動支援について、指導員研修を受ける。舎生に付けたい力や課題について指導員間で話し合う。</p> <p>(2)-2 望ましい行動がおこりやすい環境設定をする。</p> <p>(2)-3 行動の変化をグラフ化や数値化することで、舎生たちが自分たちの成長を目で見て理解できるようにする。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>(1)-1 アセスメント記入後、舎生一人ひとりの生活目標について、グループ担任で話し合った。</p> <p>(1)-2 学級担任へ(6月・11月)寄宿舎生連絡会を依頼し、舎生の状況を連携した。</p> <p>(1)-3 グループ担任で話し合った生活目標の中から舎生の意見も取り入れ、目標を決めた。</p> <p>(1)-4 寄宿舎連絡帳または口頭で保護者に連絡した。</p> <p>(2)-1 指導員研修を受け、指導員間で話し合い、舎生にどう成長してほしいのかを明確にした。</p> <p>(2)-2 目標期間、目標数、お楽しみ会の日程等を掲示し、見通しを持たせた。</p> <p>(2)-3 舎生たちの行動の変化をグラフや数値でわかりやすく伝え、次回も意欲が続くように準備した。</p>		

重点目標 (2) 児童生徒の可能性を引き出す授業・教育活動

NO. 2

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
児童一人一人の実態に応じたわかりやすい授業実践と授業改善 【小学部】	児童一人一人の障がいの特性に応じた支援のあり方を外部専門家の助言を参考に検討し、学部や学年で、共通理解を図り、学部全体で取り組んだり、成果を共有したりする。 (1) 個別の課題において、実態に応じた目標と指導の手立てを立案、実践し、その成果を学部全体で共有する。 (2) 集団で取り組む「体力づくり」をテーマに各児童の発達段階と課題、目標について、共通理解を図り、チームアプローチで学習計画、実践、改善を行う。	<u>評価指標</u> (1)-1 個別の課題2事例以上について外部専門家の指導、助言を受けながら、指導計画を立案し、実践する。 (1)-2 2事例について年間2回以上のケース報告会を実施し、学年または学部全体に還元する。 (2)-1 集団で取り組む「体力づくり」について外部専門家の指導、助言を受けながら、指導計画を立案し、実践する。 (2)-2 「体力づくり」における集団での取組について年間3回以上の検討会を実施し、チームアプローチで取り組む。 (2)-3 取組について、報告会を2回以上実施し、学部全体に還元する。	<u>評価指標の達成度</u> (1)-1 取組に対する希望者と事例を募り、2事例を決定し、計画通り実施することができた。 (1)-2 学年主任を中心にケース報告会を計画実施し、主として学年に還元した。 (2)-1 昨年度の取組を継続しながら、専門家の助言を受け、ステップアップした取組ができた。 (2)-2 教員の小グループを編成し、きめ細かい検討会を実施し、チームで取り組むことができた。 (2)-3 複数の教員が取り組み内容について学部会で報告し、取組の成果を共有できた。	総合評価 (評定) A ----- (所見) (1)は個別、(2)は集団での取組について課題を抽出し専門家からの助言をもとに教員がチームとなって意欲的に取り組むことができた。 (1)は、毎年継続した取組であり、専門家の技術に習いながら課題への取組方法を獲得できた教員が増えた。(2)は、昨年度から「体力づくり」をテーマに取り組み、教員チームで様々なアイデアや意見を出し合い、積極的な取組ができています。その結果、児童も意欲的に運動に取り組む、成果が表れている。	・(1)については、課題の指導方法や手続きを研修した教員が、次の教員へ伝えられるような体制をつくり、学部内で発展的に取組むようにしたい。(2)については、学部全体での「体力づくり」の取組が定着しつつある。今後、教育課程への位置づけについても検討を深めていきたい。
		<u>活動計画</u> (1)-1 実践する2事例以上を4月末までに抽出する。抽出した事例において、外部専門家の指導、助言を2回以上受け、実践する。 (1)-2 8月、2月に学部または学年でケース報告会を実施し、事例の成果を共有し、全体に還元する。 (2)-1 7月、1月に外部専門家より取組についての指導、助言を受け、計画、実践、改善する (2)-2 6月に取組についての研修と検討会を学部全体で実施する。必要に応じて該当教員集団で検討会を実施し、共通理解のもと実践する。 (2)-3 9月、2月に指導経過と成果報告会を実施し、学部全体に還元する。	<u>活動計画の実施状況</u> (1)-1 個別の指導計画に反映した2事例について、オンラインによる専門家の継続した指導助言を受け、実践できた。 (1)-2 学年での報告と1事例については県主催の報告会において成果報告ができた。 (2)-1 専門家の直接指導助言を計画通り受け、実践、改善に繋げることができた。 (2)-2 意見を出しやすい小集団で毎月経過報告と改善点を検討し、共通理解を図りながらチームで取り組むことができた。 (2)-3 チームで分担し、学部全体に還元できた。年間の取組をまとめ、県へも報告できた。		

<p>中高の生徒会行事の立案時に、積極的に関わる態度を養う。</p> <p>【特別活動課】</p>	<p>(1) 生徒会行事の立案時に、自分の意見や考えを伝えることができる。</p>	<p>評価指標</p> <p>(1)-1 中高の生徒会役員会において、行事の立案時に、自分の意見や考えを1回以上発表し、意見が反映された活動が3回以上できる。</p> <p>活動計画</p> <p>(1)-1 各学部ごとに生徒会活動の立案を行う。立案の際に、生徒の意見を取り入れる項目を準備する。</p> <p>(1)-2 生徒の意見が十分反映されるよう、課員で修正・調整を行い実践可能な計画に整える。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>(1)-1 感染症対策のため中高合同での生徒会役員会は開催せず、各学部ごとに活動した。毎月の目標決定では各々が目標を考え、発表した。中学部では、国府中との交流の活動内容について意見を出し合った。高等部では、生徒からの意見を取り入れ、アイデアカードを導入した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>(1)-1 各種生徒会行事の立案段階で、生徒の意見を反映させられる項目を入れ、話し合いの場を設けた。生徒会役員会で具体的な活動内容についてアイデアを出し合うことができた。</p> <p>(1)-2 生徒の意見やアイデアについて実践できるように、内容や時間の修正や調整等を行い、実践することができた。</p>	<p>総合評価 (評定) B</p> <p>-----</p> <p>(所見) 各学部の生徒会役員会において、以前に比べて生徒の意見を反映させた活動が実施できた。高等部では、アイデアカードの導入が実現し、ひとりひとりが責任を持って考案する機会となった。</p>	<p>・アイデアカードでは、児童生徒会役員さんからユニークなアイデアが出てくるのではないかと柔軟な、いろんなことがでてくるだろう。</p>	<p>・生徒会活動を自治的な活動として、教員主導ではなく、できる限り生徒主導で活動を進めていくことが大切である。教員のサポートのあり方、生徒の活動への関わり方についてさらに改善が必要である。</p>
<p>ICT学習のための環境整備</p> <p>【情報教育課】</p>	<p>(1) 校内の情報機器を調査し、校内で貸し借りができるよう見直す。</p> <p>(2) 児童生徒の学習に必要なアプリの精選を行い導入を検討し導入を依頼する。</p>	<p>評価指標</p> <p>(1)-1 校内の情報機器（ICT活用の為の機器）を整理する。</p> <p>(1)-2 使用したい学部へ貸し借りができるよう帳簿を作成する。</p> <p>(2)-1 アプリの活用状況を調査する。</p> <p>(2)-2 導入希望が出たアプリの精選を行い導入の検討をする。</p> <p>活動計画</p> <p>(1)-1 校内の情報機器を調査する。(8月)</p> <p>(1)-2 一覧にし、学部を越えて貸し出せる台帳を作成する。(9月)</p> <p>(1)-3 一覧をJoruriに掲示し貸出を開始する。(9月)</p> <p>(1)-4 必要な機器があれば購入を検討する。</p> <p>(2)-1 授業で使用しているアプリを調査する。(6月)</p> <p>(2)-2 アプリの希望を聞く。(7月)</p> <p>(2)-3 希望が出たアプリの精選を行い導入を検討する。(8月)</p> <p>(2)-4 アプリ導入の依頼をする。(8月)</p> <p>(2)-5 アプリの活用を開始する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>(1)-1 学部で情報機器の設置状況や数の調査を行った。</p> <p>(1)-2 学部の台帳を作成できた。</p> <p>(2)-1 全職員へ活用調査を行った。(10月)</p> <p>(2)-2 アプリの活用統計や導入希望のアプリの導入検討を行った。GIGAスクール推進課へ希望を出せるよう準備ができた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>(1)-1 学部課員で調査を行った。(8月)</p> <p>(1)-2 学部の台帳を作成できた。(9月)</p> <p>(1)-3 Joruriに掲示せず課員を通じて貸し借りを行えた。</p> <p>(1)-4 学部で必要な機器の購入を行った。</p> <p>(2)-1 全職員に生徒端末ポータルアプリの使用状況を調査した。(10月)</p> <p>(2)-2 (2)-1の調査時にアプリの希望を聞くことができた。</p> <p>(2)-3 希望アプリの導入の検討ができた。</p> <p>(2)-4 新しいアプリの導入は県が見合わせているので次回依頼出来るときの準備ができた。</p> <p>(2)-5 アプリの導入が検討中のため活用はできなかった。</p>	<p>総合評価 (評定) A</p> <p>-----</p> <p>(所見) ソフト面の強化が補えつつある。アプリの活用等の調査から授業への活用割合を知ることができた。校内の情報機器も貸し借りを行え授業に活用出来るようになってきた。</p>	<p>・</p>	<p>・教職員全体の研修やGIGAスクールサポーターと連携して授業に生かせる個別の研修を計画・実施したい。</p>

重点目標 (3) 自立と社会参加につながるキャリア教育

NO. 3

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>適切な進路を自己決定できるよう環境を整える。</p> <p>【進路指導課】</p>	<p>(1) 就職を希望する生徒が自分の適性、職業能力を客観的に把握し、希望する産業や職業へ反映させる。</p> <p>(2) 福祉就労については生徒の発達段階や特性を把握すると共に事業所や地域の情報を精査し、拡大進路相談までに概ね進路を決定する。</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>(1)-1 10月までに希望する産業および職業を決定する。</p> <p>(1)-2 就職を希望する生徒の就職率を100%とする。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>(1)-1 10月までに産業および職業を決定することができたが、会社、事業所について3割が決定できなかった。</p> <p>(1)-2 1月末の時点で就職を希望する生徒の就職率が100%の見込みとなった。</p>	<p>学校関係者評価</p> <p>学校関係者の意見</p>	<p>・コロナ禍での進路指導は学校や企業、事業所も対応の経験を重ね、安全、安心な活動ができるよう環境を整えられつつある。しかし、それぞれの立場で目的や考え方の違いがあるため、お互いの立場でできること等の共通理解をはかる必要がある。それぞれの立場を尊重しながら前向きな意見を交わすという姿勢を持って常日頃から密に連絡を取り合いたい。</p>
		<p><b>活動計画</b></p> <p>(1)-1 就職レディネステストやチェックリスト等を実施し、自己理解を進めた上で進路決定ができるまで進路相談を実施する。</p> <p>(1)-2 ハローワークや就業・生活支援センター、教育委員会等と連携を図り、就職面接会などのあらゆる機会を捉え、就職先とのマッチングを進めていく。</p> <p>(2)-1 太田のステージやTTAP（就労移行アセスメントツール）を進路課で必要とした生徒について実施する。</p> <p>(2)-2 就業体験や見学希望のある事業所に事前に訪問し、スムーズに就業体験が実施でき、移行が図られるよう情報交換を行う。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>(1)-1 2年生について進路相談実施途中であるが、概ね自己理解や保護者の理解が進んだ。</p> <p>(1)-2 教育委員会との連携により就職先とのマッチングを進めることができた。就職面接会は積極的に参加を勧めることができなかった。就業・生活支援センターとは今後入社まで連携強化を図る。</p> <p>(2)-1 アセスメントを計画どおり実施し、担任と情報共有を図った。</p> <p>(2)-2 事業所とは事前の打ち合わせを綿密に行い、就業体験がスムーズに実施できる環境を整えた。</p>		

重点目標 (4) 健康・安心・安全な学校づくり

NO. 4

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
健康・安心・安全な学校づくり 【安全課】	(1) 発達段階に応じた安全教育・防災教育の実施	<p><b>評価指標</b></p> <p>(1)-1 地震・火災・洪水等の避難訓練の目的、年間計画について検討し計画を立案し、学校改築に伴う避難スペースの確保や人数を調整しながら年間3回（火災は2回）以上取り組むことができる。</p> <p>(1)-2 不審者対応の教職員研修を行う目的や計画案を立て、徳島名西警察署の協力・指導を受けながら教職員の参加率7割以上で実施することができる。</p> <p>(1)-3 教職員防災研修を夏休み中に4割以上の参加率で実施することができる。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>(1)-1 避難訓練の目的や年間計画を考慮し、計画を立てた。学校改築とコロナ禍に伴い、今年度も学部単位での避難としたが、年間3回以上取り組むことができた。</p> <p>(1)-2 今年度は各学部で計画を立て、実際に学部で対応する模擬訓練を実施した。名西警察署の協力・指導を受けながら教職員の参加率8割以上で実施することができた。</p> <p>(1)-3 22名の参加であったが、参加できなかった教員にはZOOM視聴を促した。</p>	<p>学校関係者評価</p> <p>学校関係者の意見</p>	<p>次年度への課題と今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は、校舎の改築が進み、校内の安全対策が必要になる。特に避難時に避難経路や避難箇所が限られることや、密になる可能性がある。それを防ぐ方策や方法を考えておく必要がある。</li> <li>・不審者対応訓練は隔年で行っているため来年度は生徒学習会となる。今年度の教職員研修のように踏み込んだ形で実施したい。</li> <li>・教職員防災研修の参加率が悪いいため、実施時期を検討する必要がある。</li> </ul>
		<p><b>活動計画</b></p> <p>(1)-1 5月に担当者から消防署へ協力を依頼する。天候等により予備日になった場合、消防署の協力が得られない場合の代替案も準備しておく。Jアラートを活用する。しない場合の機材を準備する。どのような形で、どこへ避難する等も計画する。</p> <p>(1)-2 6月から7月の間に実施計画を立てる。実施計画に基づいて警察署へ協力を依頼する。希望研修とし、7割以上の参加率で実施することができる。</p> <p>(1)-3 6月中に実施計画を立て、防災センターへ協力を依頼する。希望研修とし、時期を考慮し、エアコンが使える場所で実施する。</p>	<p><b>総合評価</b> (評定) B</p> <p>(所見) 不審者対応の教職員研修では、事前の打ち合わせが不十分ではあったが、模擬訓練を行い好評であった。 教職員防災研修は、夏休み中の実施であったためか、参加率が4割未満であった。</p>		



重点目標 (5) 家庭・地域・関係諸機関との連携・協働

NO. 5

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
中学部の学習活動において、地域の人材を活用した取り組みを推進する。  【中学部】	(1) 中学部の授業において地域の人材を活用した授業(藍の学習)を計画実施する。	<b>評価指標</b> (1)-1 学年主任・藍の学習学年担当で中学部に於ける藍の学習の目的、年間計画等について検討し計画案を立案する。 (1)-2 藍の栽培・藍染め等を行っている地域の人材の決定、学習活動への年間の協力依頼、授業参加の連絡調整等を行い、連携を図る。 (1)-3 地域の人材を活用した授業に年間30時間以上取り組むことができる。	<b>評価指標の達成度</b> (1)-1 4月の学年主任会において、今年度の藍の学習の取り組みの年間計画の検討を行い、今年度の具体的な学習計画立案のため5月に藍の学習の担当者を決定した。 (1)-2 授業担当者が沈澱藍に関わる地域の人材(農業大学校吉原先生、藍農家岡先生、染色のホルバートハンガ先生)と連絡・調整を行い授業実施の準備を整えた。 (1)-3 藍農家岡先生とは、校内の畑を使った沈澱藍作り、農業大学校吉原先生や染色のハンガ先生とは藍染め体験の授業を30時間以上計画実施することができた。	(5) 全体を通して ・いろいろな取組をされている。 ・体験、経験を大切にしていってほしい。 ・地域連携は街作りでもある。	・藍に関する学習は、中学部において、特色ある教育活動として、継続していくことが考えられるため、協力いただける地域の人材と連携を深め、深い学びへとつなげていきたい。 中学部として藍に関する学習の活動の目標や内容の整理を行い、教育課程への明確な位置づけができるよう検討する。
		<b>活動計画</b> (1)-1 5月に担当者の検討会を計画実施し、藍の学習担当者に計画案の作成を依頼する。 (1)-2 6月に人材を決定し、【①校内の授業計画→②担当者から1年間授業計画の説明および授業協力の連絡調整→③校内の授業改善】のサイクルで地域の人材と協力連携する。 (1)-3 藍の栽培・染色等に関して6～7月、10～12月で授業を計画実施する。	<b>活動計画の実施状況</b> (1)-1 5月に担当教員と学部長で年間計画についての検討会を2回実施して計画を立案することができた。 (1)-2 6月には、3名の人材を講師として実施する授業について決定し、①～③のサイクルで3回以上担当教員が連絡調整を行い連携を図った授業につなげることができた。 (1)-3 沈澱藍作りには、6～7月にかけて2、3年生が取り組むことができた。11～12月に中学部全員で藍染め体験の授業に取り組むことができた。		

<p>ダイバーシティのモデル校として地域一体型のキャリア教育を進めるための新たな教育内容を考える。</p> <p>【高等部】</p>	<p>(1)ふらっとKOKUFUと地域連携した教育活動の実施計画を構築する。</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>(1)-1 授業担当者、進路課と活動内容（農作業・食品加工等）について検討し立案する。</p> <p>(1)-2 ふらっとKOKUFUと連携した授業を、週4時間以上実施する。</p> <p>(1)-3 全ての学年において、地域連携を実施する。</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>(1)-1 4月に担当者会を実施し、ふらっとKOKUFUと連携した教育活動について話し合う。</p> <p>(1)-2 月毎にふらっとKOKUFUの担当者と授業担当で計画を時期に応じて立てる。</p> <p>(1)-3 各学年の授業内容（作業学習A・B、生活単元学習、校内実習等）を洗い出し、一覧表を作成し学年間で連携を図るようにする。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>(1)-1 農作業については、具体的な活動内容について立案、実施し、計画の構築に向けて検討課題が明らかとなった。食品加工については、キッチンカーでの提案を行った。</p> <p>(1)-2 ふらっとKOKUFUと連携し、授業を週4時間以上実施することができた。</p> <p>(1)-3 各学年において、ふらっとKOKUFU及び地域の農事組合と連携を図ることができた。</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>(1)-1 4月以降も定期で話し合いを持つことができた。</p> <p>(1)-2 各月のうち、4月・5月・6月・7月・9月・12月において、計画を立てることができた。</p> <p>(1)-3 担当者が各学年の授業内容洗い出し、一覧表を作成し、各学年間で確認し連携を図ることができた。</p>	<p><b>総合評価</b> (評定) A</p> <p>-----</p> <p>(所見) ふらっとKOKUFUや農事組合と連携した農作業活動を実施した。計画を立て実施していく中で、ハード面（道具、土地等）、ソフト面（計画、生徒の適性等）共に検討課題が見えてきた。生徒たちはふらっとKOKUFUの作業に慣れ始め、技術面、対人面においても向上が見られた。また、農業に対する意識やモチベーションも高まり、教育効果が得られた。</p>	<p>・</p>	<p>・ふらっとKOKUFUと連携した実践的な取組の中で、生徒たちの成長を感じることができたが、学校としての教育目標とふらっとKOKUFUの事業目標の違いが感じられた。今後、相互の目標の理解を深め、協力関係を構築していく必要がある。また、現行の教育課程の見直し、検討（教育活動の位置づけ等）も行う必要がある。</p> <p>・地域連携を進めていくために、地域連携全体を包括できる担当者を置き、本年度の実績をもとに授業が円滑に行えるように、事前の計画をしっかりと立てることが重要であると考ええる。</p>
<p>PTA活動や教育活動の適切な情報発信</p> <p>【渉外課】</p>	<p>(1)「開かれた学校」に向けて、PTA活動や教育活動の情報発信を行い、保護者や地域との連携の充実を図る。</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>(1)-1 PTA活動について、年に3回以上、HPで発信する。</p> <p>(1)-2 情報機器等を活用したPTA活動（Web研修会等）を年に3回以上実施する。</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>(1)-1 PTA行事等の写真を撮って、活動の様子をHPに載せたり、PTA活動に関する情報を発信したりする。</p> <p>(1)-2 Webやオンラインを活用した研修会や会合について、案内する。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>(1)-1 PTA活動について、年間で4回、HPで発信することができた。</p> <p>(1)-2 Web研修会を2回、研修用DVDの貸し出し案内を1回、計3回を実施することができた。</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>(1)-1 今年度もコロナウイルス感染症対策のため、PTA活動を縮小せざるを得なかったが、HPを通してPTA活動について情報を発信することができた。</p> <p>(1)-2 WebやDVDを使った研修会の案内を行い、研修の機会を持つことができた。研修用DVDは、主に小学部の保護者の方からの希望が多かった。子どもの行動の理解に関する分かりやすい内容で、Web環境がなくても研修を受られる機会を設けることができた。</p>	<p><b>総合評価</b> (評定) A</p> <p>-----</p> <p>(所見) コロナウイルス感染症対策のため、今年度もPTA活動は縮小されたが、HPを通して活動や研修を発信することができた。また、2年ぶりに授業参観を実施し、普段の児童生徒の様子を見てもらう機会を設けることができた。</p>	<p>・。</p>	<p>・コロナウイルス感染症対策もウィズコロナの時代に入ったことを踏まえ、活動の幅をできる範囲で広げていければと考える。今年度、分散で実施した授業参観についても、継続していきたい。さらに、PTAの意見・要望を踏まえ、新たな授業参観の実施方法等についても検討していく必要がある。</p>

センター的機能の充実及び地域の学校等との連携 【地域支援課】	(1)センター的機能を発揮し、地域の学校等の状況把握に努め、支援の手立て等の情報を伝える。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A ----- (所見) 学校見学時に工事の騒音の影響を気にかける保護者が多くいたが、工事の進捗状況については明言できないため、授業等における配慮について説明を行った。 教育相談においては、支援学級からの相談がやや増え、地域の学校に通っている支援が必要な児童への指導の難しさが浮かび上がった。	・ ・センター的機能を発揮し、地域へ向け積極的に発信をする。 ・ホームページにて具体的かつ明日から活用できるような教材、支援の方法の紹介を定期的に行い、更新していく。(研修会や学校見学時や巡回相談で出向いた学校等の教員へ提示、伝達し、支援の手立てへつなげていただく等)・学校見学の連絡調整の徹底
		(1)-1 コロナ対策に対応した学校見学や公開研修会を通じて、地域の学校等の状況把握を行い、教育相談や支援の一助へとつなげる。	(1)-1 HP上で見学実施日や予約人数を示したことで、人数制限はあったが混乱なく対応することができた。公開研修会はリモート実施だったが、申込時に質問を受け付けることで、地域の学校での児童生徒の課題を把握することができ、教育相談や進学の一助につなげることができた。		
		活動計画	活動計画の実施状況		
		(1)-1 年度当初に地域の教育機関等に向けて本校の相談業務を紹介する。	(1)-1 相談員が徳島市の窓口に巡回相談チラシを持参し相談案内を行った。担任者研修会等で教育相談や学校見学について説明した。		
		(1)-2 保育所や学校等のニーズに対応し、巡回相談を行う。(通年)	(1)-2 ニーズに応じた巡回相談を行い、相談件数は41件であった。(3月予定含)		
		(1)-3 公開研修会参加者や学校見学実施の就学希望者へ巡回相談を案内する。	(1)-3 来校者へ学校案内の配布、説明の中で相談案内を行った。		
		(1)-4 学校HP上で教材や指導の手立て等について情報発信する。	(1)-4 教材や支援のアイデアとして「場所」や「活動」の構造化についての情報発信を行った。		

## 重点目標 (6) 組織的な学校運営

NO. 6

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
情報資産管理表に基づく個人情報や文書管理の徹底 【教務課】	(1)情報資産管理表に掲載されている文書やファイルの保存期間を遵守し、フォルダー内のファイルや教務課用キャビネットの文書等を整理する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B ----- (所見) 教務課内のフォルダーの整理で、3割減は達成できなかったが、目標近くまで整理ができた。また、職員室のキャビネットの整理を実施し、どこに何があるかわかりやすくなった。	・ ・サーバーへの負担を少なくするために不必要なファイルの削除や圧縮等は今後も継続する必要がある。また、キャビネットも長年整理できていなかったため、学校整備事業の進捗も考慮し、今後は年1回、中身を整理をする必要がある。
		(1)-1 教務課のフォルダー内にある、情報資産管理表に示されている保存期間を過ぎたファイルや不必要な文書等を整理し、全体の容量を8.5ギガから6ギガ以下(3割減)にする。	(1)-1 教務課のフォルダー内のファイルを整理し、1月10日現在で全体の容量が6.35ギガになり、容量は25%減となった。		
		(1)-2 教務課用キャビネットにある保存期間を過ぎた文書や不要な文具を整理整頓し、8台あるキャビネットを7台分の容量にする。	(1)-2 教務課用のキャビネットを整理し、7台分のキャビネットの容量に減らすことができた。		
		活動計画	活動計画の実施状況		
		(1)-1 6月と7月の課会で教務課の情報資産について資料を提示し、整理の方法や手順を話し合う。	(1)-1 夏休みを中心に課員が、情報資産管理表に基づく資料の整理や削除を行った。		
		(1)-2 長期休業を中心に、1月末までに教務課フォルダーと教務課用キャビネットを整理し、9月以降の課会で2回、整理の状況を確認する。	(1)-2 キャビネットを各学部ごとに課員が整理し、整理の状況を確認した。		